第３６回　令和７年６月５日（木）

**本日は体育祭です！川和生の日ごろの行いが良いのか素晴らしい天候に恵まれました。主役は皆さんです。大いに楽しんでください！**

**相手を納得させる、相手を説得するためには何が必要なのか。相手が常識、もしくは正しいと思っている論理（例えば１＋１＝２）に従って論理を展開することがポイントです。だからこそ、誰にでもわかりやすい言葉で論理を組み立て相手に伝えることが大事で、自分だけが理解している難しい言葉で説得することは良い方法ではありません。**

私は日本史が専門なので、歴史について概念や専門用語をある程度は知っています。ですが授業ではできるだけ「誰にでもわかる」ことばに置き換えて説明をするようにしていました。

テレビで博学な小学生が出演する「博士ちゃん」という番組があります。「博士ちゃん」が学者顔負けの専門用語を連発していたら万人受けする番組にはなりません。彼らのすごいところは自分たちと同じ小学生にわかることばで自分の専門分野を語っているところです。

素人の司会者やゲストも内容を理解することができ、面白くためになるわけです。難しく話すことを博学と間違えている人にはぜひ見てほしい番組ですね。

論文も同じです。説得力を求めるにはわかりやすい比喩を使い、結論を短くまとめること。難しい表現が多く、一つの文章が句読点のないままダラダラと長く続くのは嫌ですよね。
小説でも改行せず文字が詰まっているページは思わず飛ばしたくなります。

難解なことばを使うプレゼンは高尚に見えますが心には響かないことが多いです。短く印象に残ることばほど名スピーチとして後世に残ったりします。「人民の人民による人民のための政治」英語で言うとさらに明瞭ですが、小学生でもわかる名言ですよね。

わかる人だけわかればいいという伝え方が若干増えているのが残念です。伝える側が「これもわからないの」と上から目線で作っている難解なアニメや本も見受けられます。
見ているほうがわからなくてすみませんと気後れしてしまう、わからないのにわかるふりをしなくてはいけない「気を遣わせる」作品が多くなっているような気がします。

伝えるということは相手に対する親切さを伴わなくてはいけない行為だと思います。相手の姿を思い浮かべず、独りよがりで作られた文章は称賛されている場合もありますが、同じくらいの数の人が、読み取れない自分に対して自己嫌悪を抱えながらあきらめてしまっているような気がしています。
伝える側に優しさのない文章は一目でわかります。例えば何千人も論文を採点しなくてはならない人から見ると全く魅力のない文章に見えるのではないでしょうか。